

県立有馬富士公園運営協議会の開催

県立有馬富士公園運営協議会において委員による公園全体のあり方を検討するワークショップを以下により開催します。

- 1 日時 令和7年1月23日（木）15:00～17:00
- 2 場所 県立有馬富士公園 多目的ホール [三田市福島1091-2]
- 3 参加者 有馬富士公園運営協議会委員等（35名程度）
（内訳）委員16名、県10名、人博2名、事務局4名 ※一般の方も傍聴可能（希望制）
- 4 内容 趣旨説明→自己紹介・ワークショップ（グループ別）→意見発表・質疑応答

進行スケジュール（予定）		時間
15:00～15:20	開会、趣旨説明	20分
15:20～16:20	ワークショップ（グループ別意見交換）	60分
16:20～16:45	意見発表（7分×2グループ） 発表に対する質疑応答（10分）	25分
16:45～17:00	その他（事務局連絡等） ・宝塚土木事務所より（約10分） ・公園緑地課より（約5分）	15分

グループ進行役

- ▶ 福本 優（県立人と自然の博物館研究員）
- ▶ 遠藤 修作（県立人と自然の博物館コーディネーター）

進め方

- ▶ **ワークショップ（グループ別意見交換）**
 - ・2グループに分かれて意見交換を実施
 - ・出てきた意見を付箋に記入し、地図へ落とし込む
- ▶ **意見発表（質疑応答）**
 - ・各グループの進行役から意見発表
 - ・参加者間の質疑応答

グループ進行役・参加者(案)

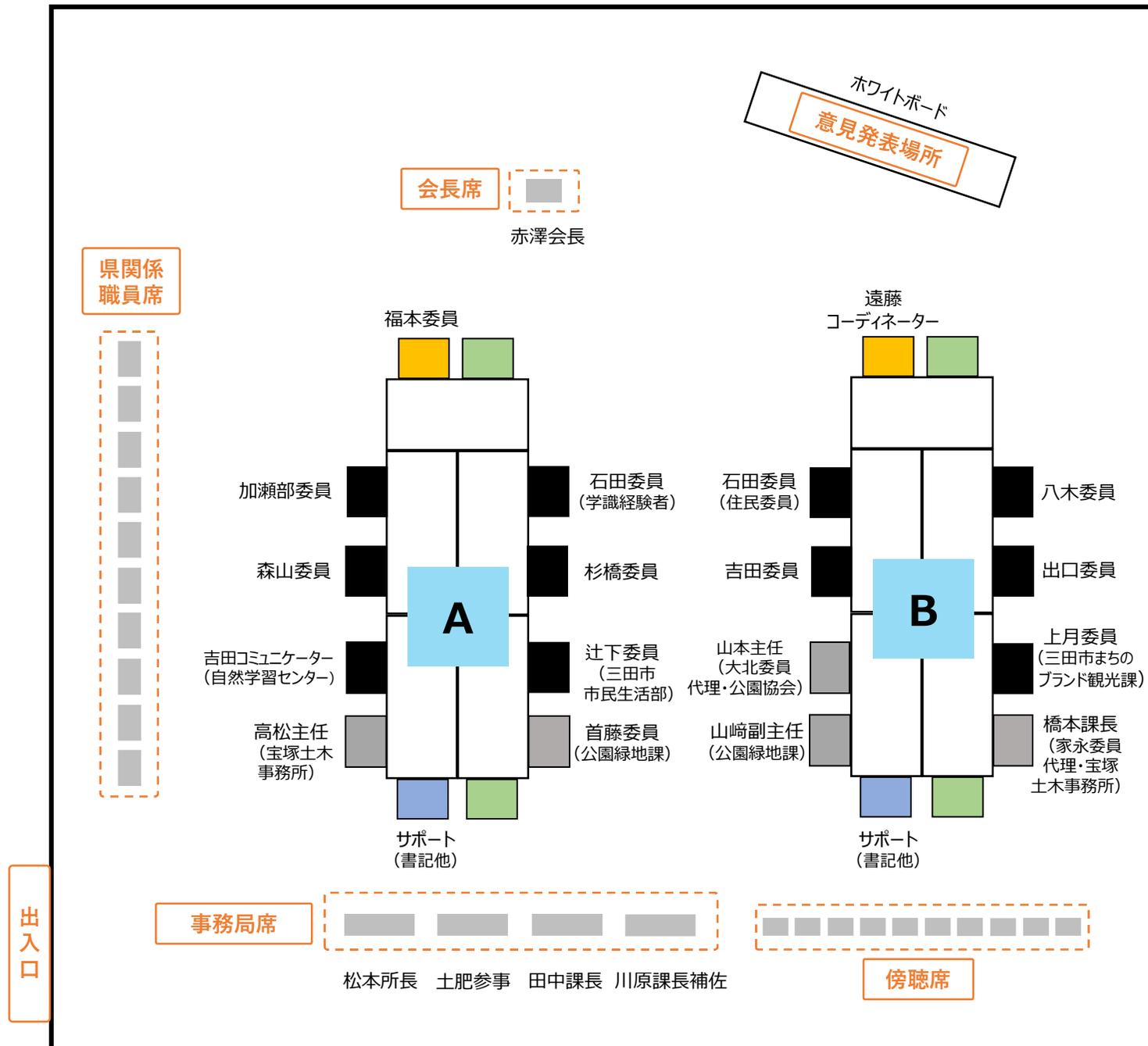
ワークショップ全体の進行：赤澤会長

区分・所属	A	B
進行役（コーディネーター）	福本委員	遠藤コーディネーター
学識経験者	石田委員	八木委員
住民委員	加瀬部委員	石田委員
	杉橋委員	出口委員
	森山委員	吉田委員
行政関係（三田市）	辻下委員	上月委員
人と自然の博物館	吉田コミュニケーター	—
オブザーバー	首藤委員	橋本課長（家永委員代理）
	高松主任 （宝塚土木事務所）	山本主任（大北委員代理）
	—	山崎副主任 （県公園緑地課）
人数 （オブザーバーを除く）	<u>7名</u>	<u>6名</u>

※1 公園管理者等の委員はオブザーバーとして参加する。

※2 県や事務局は適宜グループに参加の上、書記等のサポートを行う。

会場レイアウト(多目的ホール)



- 有馬富士公園以外で活動する方が有馬富士公園に対して思う意見
 - ・三田の付近に**ブッシュクラフト**を行う方がおり、**資源の活用**を楽しく体験できるのでは？（地域環境計画分野）
 - ・Wi-Fiより**カフェ**の方が必要（スタートアップ分野）
 - ・**イベントは子連れOKにする**と参加しやすい。（子育て分野）
 - ・活動を長期的に継続するためには、「**ゲスト**」として参加した人が、「**ホスト**」、「**プレイヤー**」として活動できるように育成する体制を整える必要がある。（スタートアップ分野）

■公園外のおもしろい活動事例

スタートアップ事業

- ・3~5歳の子ども服フリーマーケット
- ・防災避難訓練（有馬富士共生センター 1泊2日）
- ・ママ友でもない、つながりがなかったおしゃべり会
- ・子どもバル、子ども店長（湊川短期大学の生徒とコラボ）

油津商店街（他府県）

油津商店街の一角では、プレハブを改装した宿泊施設が複数配置されている。プレハブの配置によっては、新たな空間が形成され、コミュニティの場所となり得る。



プレハブを改造した宿泊施設



宿泊施設の前に食堂

ひる学校（他府県）

地域になじめないおじさんが働き口を探しており、その方は行司ができるという利点があったため、不登校の子どもたちと一緒に相撲をしたり、遊んだりすることで、不登校の子どもたちがほっとして学べる場の担い手となった。

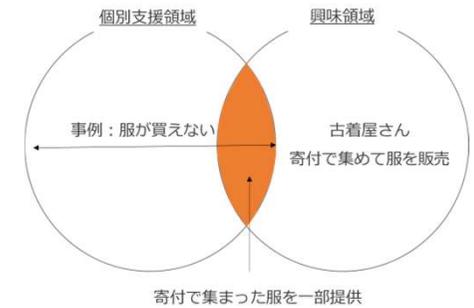
子どもたちの健やかな成長を願う地域の声から生まれたフリースクール。元学校教師と地域の方とが力を合わせ、子どもたちがほっとできる場所を提供。



三股町コミュニティデザインラボパンフレット

古着屋さん（他府県）

NAZOは、家庭の環境により家を出た方が服を買うことができない困った状態を解決すべく立ち上がったプロジェクト（古着屋さん）。地域の空き家問題や捨ててしまう服のリサイクルの観点に着目し解決した事例。



三股町の各地で 着なくなった服を回収

販売

店舗がコミュニティの場になる

寄付

服が買えない人に服を提供
まちの本課題

リサイクル



樺山購買部（他府県）

樺山購買部は空き店舗の利活用要望があり立ち上がったプロジェクト。売る物を1つに絞らず、スーパーの総菜やリサイクル文具の購入、寄付された本の貸し出しの他、施設内でゲームができ、多世代のまちなかのコミュニティ拠点となっている。



引用：三股町コミュニティデザインラボ.HP（一部加工）



ゲーム機



リサイクル文具



レンタル本

惣菜

夢プログラムに関するヒアリングについて

● 夢プログラムクルー

- ・夢プロの団体概要書等は毎年提出となっても問題ない。
- ・現状に合っていない仕組みやルール等は見直してもよい。
- ・①**夢プロの後継者の育成**、②ボランティアをしたい人がいるのか等の**ニーズを把握できていない**ことが課題。
- ・夢プログループで棲み分けを行うためにもゾーニングで示した方がよい。ゾーニングするにあたっては、次世代に何を残すのかという視点が必要である。

(例：生き物を守りたいグループと、生き物を捕まえて観察したいグループは相反する。)

- ・現場も把握している**公園管理事務所の職員の育成や位置づけも重要**。開園当初は職員の方がコーディネーターの役割を担い、夢プロの各グループや地域とのつながりを調整していた。現在はその役割がなく、地域等とのつながりや人材育成を行うことは難しい。
- ・新規グループの**伴走支援が可能であることをもっと広報する**必要があると感じる。
- ・短期的な**ワークショップを経験できる場を提供**することで、夢プロの後継者を集めることができないか。

夢プログラムに関するヒアリングについて

● 県立人と自然の博物館

- ・開始当初の夢プロについて、**プログラムにフォーカスした事業認証**であり、団体認証ではなかった。
- ・「ひとはく連携活動グループ」では、団体認証のような仕組みであったが、必ずアドバイザーを設置し団体と協定を締結していた。団体認証とするのであれば、どこが団体管理の責任を持つのか改めて考えるべきである。
- ・県と市で広報誌等を共同編集していた過去もあり、再度**自然学習センターと連携**することを検討した方が良い。
- ・夢プロに登録しなければならないというわけではなく、**したいことをできる機会**や**場所の提供**程度の方が参加する人が増える可能性がある。
- ・屋台村に参加する人の間で温度差があるように感じる。屋台村だけでなく、全体としてもっと公園を**気軽に使える仕組み**が現代社会には合っている。